



完成した新工場。情報産業用刃物の増産を図る

情報産業用刃物増産へ

東洋刃物富谷に新工場完成

産業用刃物製造の東洋刃物が富谷市の本社敷地内に建設してきた新工場「MS棟」が完成し、現地で8日に竣工式があった。電気自動車（EV）のリチウムイオン電池の製造に用い

られる主力商品・マイクロスリッターナイフ（MS、情報産業用刃物）を増産する。鉄骨一部2階建て、延べ床面積4355平方メートル。総工費は約11億円。刃物製造

から組み立て、検査を一貫して手がける。複数の建屋にまたがっていた工程を集約し、生産性を高めた。今月下旬から順次稼働する。2階部分に本社の管理部

門を移し、計80人が勤務する予定。リフレッシュルームなど福利厚生施設も整備した。

MSは電子機器向けの機能性フィルムや記録メディアの加工にも用いられる。EV市場の拡大や第5世代（5G）移动通信システムの普及を背景に引き合いが強まっているという。

東洋刃物は昨年8月、半導体関連のフェローテックホールディングス（東京）

の子会社となった。海外拠点を生かした拡販を展開しており、大石純一郎社長は「高品質な製品を国内外に迅速に届ける。3年ほどで現在の2倍規模の生産を目指す」と展望した。